

各 位

上場会社名	株式会社 クイック
代表者	代表取締役社長 和納 勉
(コード番号	4318)
問合せ先責任者	常務取締役管理本部長兼経理部長 藤原 功一
(TEL	06-6375-0061)

業績予想の修正に関するお知らせ

最近の業績動向を踏まえ、平成20年5月7日に公表した業績予想を下記の通り修正いたしましたのでお知らせいたします。

記

(金額の単位:百万円)

平成21年3月期第2四半期連結累計期間連結業績予想数値の修正(平成20年4月1日～平成20年9月30日)

	売上高	営業利益	経常利益	四半期純利益	1株当たり四半期純利益
	百万円	百万円	百万円	百万円	円 銭
前回発表予想(A)	5,457	△17	△11	△17	△0.89
今回発表予想(B)	4,700	△161	△160	△192	△10.05
増減額(B-A)	△757	△144	△149	△175	――
増減率(%)	△13.9	――	――	――	――
(ご参考)前期第2四半期実績 (平成20年3月期第2四半期)	5,431	△22	0	45	2.41

平成21年3月期通期連結業績予想数値の修正(平成20年4月1日～平成21年3月31日)

	売上高	営業利益	経常利益	当期純利益	1株当たり当期純利益
	百万円	百万円	百万円	百万円	円 銭
前回発表予想(A)	12,000	440	450	230	12.04
今回発表予想(B)	10,000	73	80	△60	△3.12
増減額(B-A)	△2,000	△367	△370	△290	――
増減率(%)	△16.7	△83.4	△82.2	――	――
(ご参考)前期実績 (平成20年3月期)	11,435	366	400	305	16.02

平成21年3月期第2四半期累計期間個別業績予想数値の修正(平成20年4月1日～平成20年9月30日)

	売上高	営業利益	経常利益	四半期純利益	1株当たり四半期純利益
	百万円	百万円	百万円	百万円	円 銭
前回発表予想(A)	2,330	△129	△26	△13	△0.68
今回発表予想(B)	1,900	△190	△82	△22	△1.15
増減額(B-A)	△430	△61	△56	△9	――
増減率(%)	△18.5	――	――	――	――
(ご参考)前期第2四半期実績 (平成20年3月期第2四半期)	2,453	△79	48	128	6.75

平成21年3月期通期個別業績予想数値の修正(平成20年4月1日～平成21年3月31日)

	売上高	営業利益	経常利益	当期純利益	1株当たり当期純利益
	百万円	百万円	百万円	百万円	円 銭
前回発表予想(A)	5,574	142	271	160	8.38
今回発表予想(B)	4,550	△43	100	68	3.56
増減額(B-A)	△1,024	△185	△171	△92	――
増減率(%)	△18.4	――	△63.1	△57.5	――
(ご参考)前期実績 (平成20年3月期)	5,915	339	469	294	13.98

修正の理由

連結業績修正理由

(1)第2四半期累計期間業績予想につきまして

売上高につきましては、主力のリクルーティング広告事業では景況感の後退に伴い、求人広告市場の縮小や低価格媒体への移行により想定よりも落ち込みが厳しく、売上高は当初計画を520百万円下回る見込みであります。さらに情報出版事業においても他媒体との競合により売上が伸び悩み、売上高は当初計画を150百万円下回る見込みであります。営業利益、経常利益につきましては、原価の見直しや販売費等の節減を全社をあげて取り組みましたが売上高の減少分をカバーしきれず大幅な減益となる見込みであります。

四半期純利益につきましては、上記の理由に加え、現在の市況を鑑み情報出版事業子会社の繰延税金資産86百万円の取り崩しを行うことによる損失見込みであります。

(2)通期業績予想につきまして

売上高につきましては、第2四半期以降の市場状況には今後も変わりがないと予想し、セグメント別に見ますと、売上高は当初計画をり

クルーティング広告事業が1,100百万円、人材サービス事業が400百万円、情報出版事業が300百万円下回る見込みであります。
営業利益および経常利益につきましては、第2四半期連結累計期間における減益分を補えず、通期でも減額予想としました。
当期純利益につきましては、上記の理由に加え、現在の市況を鑑み情報出版事業子会社の繰延税金資産86百万円の取り崩しを行うことによる損失見込みであります。

個別業績修正理由

(1)第2四半期業績予想につきまして

売上高につきましては、人材紹介部門は順調に売上高を伸ばしつつありますが、主力のリクルーティング広告事業では景況感の後退に伴い、求人広告の減少や低価格媒体への移行により想定よりも落ち込みが厳しく、売上高は当初計画を500百万円下回る見込みであります。

営業利益・経常利益は売上高の減少に伴い損失は拡大する見込みであります。
一方四半期純利益は税効果会計による税金等調整額の減算計上により損失幅は減少します。

(2)通期業績予想につきまして

売上高、営業利益、経常利益および当期純利益いずれも、四半期の減収・減益額を反映した通期予想としております。

当社ではリクルーティング広告事業においては、採用コンサルティングに力を入れるほか、情報出版事業では媒体の見直しや情報誌のモバイル化および北陸・新潟ポータルサイト「サンロクゴ」の活性化に努めます。さらに人材サービス事業では人員を人材紹介部門へシフトするなどの施策を行い市場環境の厳しさに耐え収益の改善に努めます。

なお、この業績予想の修正による配当予想の変更はございません。当社の配当政策として連結当期純利益の30%以上を目安に配当しております。本来であれば無配とすべきところですが、今年度におきましては株主様への利益還元を実施いたしたく配当を維持する所存であります。

(注)業績予想につきましては、現時点で入手可能な情報に基づいて作成したものであり、実際の業績は、今後様々な要因によって予想数値と異なる結果となる可能性があります。

以上